

活動テーマ

『食べる』のむこうに

実践事例について

環境保全のための知識や主体的な考えと実践力を持った子どもを育成するための環境教育プログラムを作成し、実践した。ゆりかご水田での生き物観察会や伝統食作りなどを通して、子どもたちは自分たちの「食」に興味を持って調べ、地域の方々と協同した活動を楽しみ、グリーン活動などの地域の環境保全活動に進んで取り組んだ。

1 はじめに

(1) 学校の概要

本校は滋賀県北部草野川の中流域に位置する全校児童 520 名の学校である。校区には水田が広がり、平地の森として県下でも珍しいふくらの森が残っている。草野川の伏流水は今でも校区のあちこちで利用されている。水田には、自然の豊かさを象徴する生きものが生息している。

(2) 実践の動機

自然の豊かさが残っている地域であるが、多くの児童は関心が薄く、また地域に暮らしているという実感が乏しい。地域の環境保全に主体的に取り組む児童の育成に当たっては、子どもたちが、身の回りの環境に関心を持ち、自分たちが暮らす地域の豊かな自然や文化の価値に気づくことが大切であり、環境について自分との関わりを実感することが大切である。そのためのかっかけを作ろうと考えた。地域は教育に関して関心が高く、協力的である。本校は平成 22 年度よりコミュニティ・スクールの取り組みを進め「地域と共にある学校づくり」の推進に取り組んでいる。

2 実践事例

(1) 「いただきます」は誰に言う？

県文化財保護協会の大沼さんから自然の恵みと昔からの知恵を上手に利用した伝統食を紹介していただいた。子どもたちには石貝のお味噌汁やエビ豆、小あゆの佃煮などが好評であった。大沼さんは、「わたしたちは生きものの命をいただいて生きている」と話された。生き物は全て太陽からのエネルギーと他の命を利用して生きていること、人間も他の生き物も同じだ、と子どもたちは知った。その後子どもたちは、互いに声を掛け合って食べ残さないように気をつけたり、給食委員会で「給食を残さず食べよう」と呼びかけたりするようになった。

(2) ゆりかご水田の取り組みを知る

地域で取り組まれているゆりかご水田で生き物の観察会を行った。地域の方が先生になってくださり、実際に魚を見せながらゆりかご水田の仕組みや、ニゴロブナの成長度合いによる違いを教えてくださいました。学校近くの水路に様々な生き物を観察し、身近な川が生き物たちの大切なすみかとなっていることを確かめることができた。漁師の協力により、子どもたちはその後、卵を腹に持っている親魚を学校そばの田んぼに放流した。ほどなく、仔魚が誕生し、子どもたちは稚魚の成長を楽しみに見守った。中干しの時期には、水路に残っている魚を助けようという声上がり、田んぼの溝から用水路に魚を移した。



(3) ふなずし作り

ゆりかご水田の学習で子どもたちはニゴロブナが中干しの時期に琵琶湖に下り、滋賀の伝統食ふなずしの材料になると知った。琵琶湖の環境が変わり、以前の琵琶湖に豊富にいたニゴロブナは漁獲量が激減している。ふなずしは琵琶湖を代表する食文化である。湯田学区地域づくり協議会の皆様のご指導を受け、ふなずし作

りに挑戦した。夏から秋の間、校舎の外に樽を置き、折々に観察した。子どもたちは「待つことの楽しみ」を知り、昔の人の知恵の素晴らしさに気づくことができた。お世話になった方々や保護者の方を招いて、ふなずし交流会を開く予定である。



(4) 少し昔の琵琶湖の様子を調べよう

社会科の水産業の授業で、昔と今の琵琶湖の変化を学習した。琵琶湖の周りでは人間の生活が便利になることを目指して開発が進められた。その反面、琵琶湖に住む生き物の産卵場所や住処は減少し、在来魚の漁獲量は激減している。人間の行為が生き物の住処や命をおびやかしたことを知り、人間の都合だけを考えるとはいけないと話し合った。そこで人間の生活の便利さと生き物のくらしを守ることを両立させる各地の取り組みを紹介し、児童は自分たちの地域でも、その努力が行われていることを知った。子どもたちは琵琶湖の生き物を守るためにできることを話し合い、地域で行われる環境保全の行事に参加した子もあった。また琵琶湖の漁業を守るため、琵琶湖の魚を食べて、そのおいしさを他の人に伝えたいと考えた。

(5) 米作り

本校はこれまでから地域の方の協力を得て、学校近くの田んぼで米作りの学習をしている。田植えでは農家の方から「毎年1年生の気持ちでおいしいお米を育てるために挑戦している」「みんなが植える3本の苗が育つとおはぎ2つ分になる」と聞き、子どもたちは丁寧に糯米の苗を植えた。草取りや田んぼでの生き物観察会、田んぼの土の機能実験などを通して、田んぼが稲を育てるだけではなく、さまざまな恵みをもたらす大切な場所であると考えられるようになった。11月には親子活動で餅つき大会を行い、昔ながらの臼と杵で餅つきを楽しんだ。子どもたちは、保護者と一緒に作って食べたり、振る舞ったりすることの楽しさを味わった。また大人の人たちが道具を大切に使用されるのを見て、準備と後始末、段取りの大切さについても考えることができた。



3 まとめ

『食べる』のむこうに」の活動を通じて、子どもたちは地域の自然や文化に関心を持ち、進んで調べて、親しみを感じたり、大事にしたいと考えたりするようになった。

また活動を通じて、みんなで目的に向かって活動する楽しさや、自分たちが地域の方々に支えてもらっていることを知り、自分もまたよりよい地域のために活動したいと考えられるようになった。

地域の方はよく「子どもは地域の宝だから」と言われる。これからも地域に愛着を持ち、よりよい未来を築くために行動していける子どもを育てていけるよう取り組んでいきたい。

学校名	長浜市立湯田小学校
住所	長浜市内保町1051
電話番号	0749-74-0009
E-mail	yuta-sho@zc.ztv.ne.jp